調　査　票

基礎調査票（Ａ調査）

【調査対象者】平成18年度に公立中学校第3学年に在籍していた生徒であって、当該年度間に連続又は断続して30日以上欠席した生徒のうち、理由を「不登校」として学校基本調査（及び児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査）に計上された者。

※「公立」とは、都道府県立、市（区）立、町立、村立及び組合立をいい、「中学校」には、中等教育学校前期課程を含む。

Ⅰ．指導要録より転記してください。

（1）「性別」については、選択肢の数字を○で囲んでください。

（2）各学年の「欠席状況等」については、指導要録から転記するなどしてください。

（3）「中学校卒業直後の進路状況」については、選択肢の数字を○で囲んでください。なお、指導要録に複数の進路が記録されている場合には、該当する選択肢をすべて選んでください。

性別	1．男　　2．女
中学3年生時の欠席状況等	総欠席日数：（　　）日 〔うち不登校による欠席日数：（　　）日〕
中学2年生時の欠席状況等	総欠席日数：（　　）日 〔うち不登校による欠席日数：（　　）日〕
中学1年生時の欠席状況等	総欠席日数：（　　）日 〔うち不登校による欠席日数：（　　）日〕
中学校卒業直後の進路状況 ※1～4から選んで○をつけてください。（複数回答可）	1．高等学校等へ進学 「高等学校等への進学」とは、全日制高等学校、定時制高等学校、通信制高等学校、高等専門学校、専修学校・各種学校、特別支援学校高等部等への進学をいう。 2．就職 「就職」とは、正社員やパート・アルバイトとしての勤務、家業手伝い等をいう。 3．その他 「その他」には、民間施設（いわゆる「フリースクール」など）、進学塾、補習塾、進学予備校、高卒認定試験予備校、サポート校、技能連携校等に通う場合や、在宅等を含む。 4．不明

Ⅱ．電話等によって確認の上記入してください。

（1）本人には、電話、手紙等適宜の方法で連絡をとり、B調査への協力を依頼してください。

（2）協力を依頼した結果について、選択肢の数字を○で囲んでください。なお、「3．本人に代わって家族が協力を拒否」とは、本人の意志にかかわらず家族が拒否した場合や、家族が本人に取り次ぐことを拒否した場合等をいいます。

調査協力依頼に対する応諾の状況	B調査への協力状況 1．本人が協力を応諾 2．本人が協力を拒否 3．本人に代わって家族が協力を拒否 4．連絡不能

文部科学省調査

不登校に関する無記名アンケート調査票（B調査）

このアンケートは、病気や経済的理由以外の何らかの理由で長期間学校を欠席されていた方の声を直接お聞きし、今後の検討の参考とするものです。質問は、大きく四つに分かれ、全部で問１～問３６まであります。お手数をおかけいたしますが、最後まで答えていただきますようお願いします。

また、このアンケートは、無記名の調査であり、いただいた回答は、選択肢の番号を使うなどして数字に変えて集計するので、個人の秘密やプライバシーは固く守られます。また、アンケート結果を調査の目的以外に使用することはありません。どうぞ率直にご回答ください。

なお、このアンケートの返送先は、文部科学省から委託を受けた株式会社三菱総合研究所になっております。

注）本調査は、文部科学省が実施しております。なお、「不登校」とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しなかった、またはしたくてもできなかった状態（病気や経済的理由によるものを除く）を言います。

１．あなたご自身およびあなたの小学校、中学校の時の様子についてお聞きします。（問 1～問 13）

問1　あなたの性別をお教えください（どちらかあてはまる番号ひとつに○）。

1. 男	2. 女

問2　小学校と中学校1・2・3年生の出席の状況についてお聞きします。a.～d.のそれぞれについて、あなたの状況に一番近い番号をひとつ選んで○をつけてください。

	1. ほとんど休まなかった	2. 少し休んだ	3. かなり休んだ	4. ほとんど休んだ
a.小学校の時はどのくらい学校を休みましたか。	1	2	3	4
b.中学校１年生の時はどのくらい学校を休みましたか。	1	2	3	4
c.中学校２年生の時はどのくらい学校を休みましたか。	1	2	3	4
d.中学校３年生の時はどのくらい学校を休みましたか。	1	2	3	4

問3　小学生の時の学校生活について、a.～c.のそれぞれのことについて、あなたにあてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。

	1. よくあてはまる	2. 少しあてはまる	3. あまりあてはまらない	4. まったくあてはまらない
a.授業が楽しかった	1	2	3	4
b.友達との関係が楽しかった	1	2	3	4
c.先生との関係が楽しかった	1	2	3	4

問4-1　あなたが学校を休みはじめた時のきっかけは何ですか。思いあたるものすべてに○をつけてください。

1. 友人との関係（いやがらせやいじめ、けんかなど）
2. 先生との関係（先生がおこる、注意がうるさい、体罰など）
3. 勉強が分からない（授業がおもしろくない、成績がよくない、テストがきらいなど）
4. クラブや部活動の友人・先輩との関係（先輩からのいじめ、他の部員とうまくいかなかったなど）
5. 学校のきまりなどの問題（学校の校則がきびしいなど）
6. 入学、転校、進級して学校や学級になじめなかった（転校、進級したときの不適応など）
7. 家族の生活環境の急激な変化（父親や母親の単身赴任、家族の別居、親の転職や失業など経済的な問題など）
8. 親との関係（親がおこる、親の言葉や態度への反発、親との会話がほとんどないなど）
9. 家族の不和（両親の不和、祖父母と父母の不和など）
10. 病気
11. 生活リズムの乱れ（朝起きられないなど）
12. インターネットやメール、ゲームなどの影響（一度始めると止められない、学校より楽しいなど）
13. その他 （具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
14. とくに思いあたることはない

問 4-2 あなたが最初に学校を休みはじめたのは、何年生の何月頃ですか。学年と時期のそれぞれに1つずつ○をつけてください。

a. 学年（○は1つ）

1. 小学校1年生	2. 小学校2年生	3. 小学校3年生	4. 小学校4年生	5. 小学校5年生
6. 小学校6年生	7. 中学校1年生	8. 中学校2年生	9. 中学校3年生	10. わからない

b. 時期（○は1つ）

1. 4月～6月	2. 7月～9月	3. 10月～12月	4. 1月～3月	5. わからない

あなたが中学校3年生のときのことについてお聞きします。（問 5～問 12）

問5 不登校が続く理由は、次の1から13のようなものが考えられます。今、ふりかえってみて中学校3年生の時のあなたにあてはまると思うものすべてに○をつけてください。

1. いやがらせやいじめをする生徒の存在や、友人との人間関係のため
2. 先生との関係（先生がおこる、注意がうるさい、体罰など）のため
3. 遊ぶためや非行グループにはいっていたため
4. 無気力でなんとなく学校へ行かなかったため
5. 学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため
6. だれかが迎えに来たり強く催促されたりすると学校へ行くが、長続きしなかったため
7. 学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため
8. なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できず、自分の好きな方向を選んだため
9. 親から登校するようすすめられず、家にいても親から注意されなかったため
10. 朝起きられないなど生活リズムが乱れていたため
11. 勉強についていけなかったため
12. 学校から登校するように働きかけがなかったため
13. 保護者やまわりの人に学校を休んでもいいと助言されたため
14. その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
15. わからない

問6 中学校3年生の時、1～7のような場所を利用したり、8～10のような人に相談したりしたことがありますか。利用したり相談したりしたものすべてに○を付けてください。

1. 教育支援センター（適応指導教室） ※注
2. 教育相談所
3. 児童相談所、福祉事務所
4. 保健所・保健センター
5. 病院・診療所
6. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
7. 6.以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
8. 学校の養護教諭（保健室の先生）
9. 学校の先生（担任の先生など）
10. 学校にいる相談員など（スクールカウンセラーなど）
11. その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
12. 何も利用しなかった

※注 教育支援センター（適応指導教室）
都道府県や市町村の教育委員会が設けるもので、不登校の子どもたちを受け入れて、勉強や集団での指導などを行う場所。「ふれあい教室（ルーム）」、「チャレンジ教室（ルーム）」などの名前で、教育センター・教育相談所や公民館などにあることが多い。

問7　中学校3年生の時、次のような相談や手助けなどがあればいいのにと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 進学するための相談や手助け
2. 仕事につくための相談や手助け
3. 学校の勉強についての相談や手助け
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所
7. 心の悩みについての相談
8. 規則正しい生活習慣についての指導
9. その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
10. とくにない

問8　中学校3年生の時をふりかえってみて、不登校で学校を休んでいた時のあなたの気持ちについて、a.～c.のそれぞれのことについて最も近いものをひとつずつ選んで○をつけてください。

	1. そう思う	2. 少しそう思う	3. そう思わない
a. 特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった	1	2	3
b. 自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった	1	2	3
c. 学校へ行きたかったが、行けなかった	1	2	3

問9　中学校3年生の時、学校以外であれば勉強を続けたいと思っていましたか。どちらかに○をつけてください。

1.　思っていた　　2.　思っていなかった

↓

問 9-1　問 9 で「1. 思っていた」を選んだ方にお聞きします。勉強を続けやすいのはどのような方法でしょうか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（※当時あなたが実際に行った方法かどうかにはかかわらずお答えください。）

1. 先生が家庭に訪問し勉強する
2. 教育支援センター（適応指導教室）（問６参照）に通う
3. 公民館、図書館、公立の青少年教育施設などに通う
4. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）に通う
5. ４以外の民間の教育機関（進学塾、補習塾、サポート校など）に通う
6. 郵便、ＦＡＸ、電子メール、インターネット、電話などを用いて助言してもらいながら家庭で勉強する
7. その他（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

↓

問 9-2　問 9 で「2. 思っていなかった」を選んだ方にお聞きします。学校以外であっても勉強を続けたいと思わなかったのはなぜですか。いちばん近いものをひとつ選んでください。

1. 勉強がきらいだから
2. 勉強に意味があるとは思えないから
3. 勉強以外にやりたいことがあるから
4. 学校以外で勉強を続けるくらいなら学校へ行くから
5. 何もやる気がしないから
6. その他
（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問10　中学校3年生の時、自分の将来について夢や希望がありましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. あった　　2. ぼんやりとあった　　3. なかった

問11　中学校3年生の時、誰と暮らしていましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 母親　2. 父親　3. きょうだい　4. 祖父母　5. ひとり　6. その他（＿＿＿＿＿＿）

問12　中学校3年生の時、あなたの家庭は生活（経済的）にゆとりがあったと思いますか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. ゆとりがあったと思う　　2. ややゆとりがあったと思う　　3. ふつうだったと思う
4. やや苦しかったと思う　　5. 苦しかったと思う

問13 今、考えると、小中学生の頃、不登校で学校に行かなかったことをどう思いますか。次の1．～4．の中からいちばん近いものをひとつ選んで○をつけてください。

1．行けばよかった　2．しかたがなかった　3．行かなくてよかった　4．何とも思わない

※そのほかに思うことがありましたら自由にお書き下さい。

（　　）

2．あなたの中学校卒業直後（４月時点）から現在までの様子についてお聞きします。（問 14～問 22）

問14 あなたは中学校を卒業した時、希望どおりの進路に進むことができましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1．希望どおりだった　2．希望とは少しちがっていた 3．希望とはかなりちがっていた 4．希望とはまったくちがっていた

↓

問 14-1 問 14 で「希望とはちがっていた（2，3，4）」を選んだ方にお聞きします。希望どおりの進路に進めなかったのは不登校であったことが影響していると思いますか。次の1.～4.の中からひとつ選んで○をつけてください。
1．かなり影響している　2．少し影響している 3．あまり影響していない　4．まったく影響していない

問15-1 中学校を卒業してから、高等学校等に進学されましたか。（どちらかあてはまる番号ひとつに○）。

1. 進学した　2. 進学しなかった

↓

問 15-2 進学された方（問 15-1 で「1. 進学した」と答えた方）にお聞きします。中学校を卒業してから現在までをふりかえって、進学した学校についてどのような感想をお持ちですか。a.～e.のそれぞれのことについてひとつずつ選んで○をつけてください。

	1. はい	2. いいえ
a. 自分の望み通りの学校に出会った	1	2
b. 自分の力や性格に合った学校にめぐり会えた	1	2
c. 学校で信頼できる人に出会えた	1	2
d. 学校の雰囲気が自分に合っていた	1	2
e. 勉強を通して、自分に対する自信がでてきた	1	2

問 15-3 中学校を卒業してから、就職したことがありますか。（どちらかあてはまる番号ひとつに○）。

1. 就職したことがある　2. 就職したことがない

↓

問 15-4 就職したことがある方（問 15-3 で「1. 就職したことがある」と答えた方）にお聞きします。中学校を卒業してから現在までをふりかえって、仕事についてどのような感想をお持ちですか。a.～e.のそれぞれのことについてひとつずつ選んで○をつけてください。

	1. はい	2. いいえ
a. 自分の望み通りの仕事に出会った	1	2
b. 自分の力や性格に合った仕事にめぐり会えた	1	2
c. 仕事の場で信頼できる人に出会えた	1	2
d. 職場の雰囲気が自分に合っていた	1	2
e. 仕事を通して、自分に対する自信がでてきた	1	2

問16　中学校を卒業してから現在までで、1～9のような場所を利用したり、10～12のような人に相談したことがありますか。利用したり相談したりしたものすべてに○をつけてください。

1. 教育支援センター（適応指導教室）
2. 教育相談所
3. 児童相談所、福祉事務所
4. 職業安定所（ハローワーク）
5. 保健所・保健センター
6. 病院・診療所
7. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
8. 4以外の職業相談・支援などをする民間の機関（「サポートステーション」と呼ばれる場所など）
9. 7以外の心理相談・カウンセリングなどをする民間の機関
10. 学校の養護教諭（保健室の先生）
11. 学校の先生（担任の先生など）
12. 学校にいる相談員（スクールカウンセラーなど）
13. その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
14. 何も利用しなかった

問 16-1　問 16 で1～12のいずれかの回答を選んだ方にお聞きします。選んだもののうち、現在でも利用している場所があったり、相談している人がいますか。あればその番号すべてを下の（　）に記入してください。

（　）（　）（　）（　）（　）（　）（　）（　）（　）（　）（　）（　）

問17　中学を卒業してから現在までの生活の中で、次のような相談や手助けなどがあればいいのにと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 進学するための相談や手助け
2. 仕事につくための相談や手助け
3. 学校の勉強についての相談や手助け
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所
7. 心の悩みについての相談
8. 規則正しい生活習慣についての指導
9. その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
10. とくにない

問18　中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、あなたの進路状況についてあてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 就職せずに高等学校等に進学した　→問 19（6ページ）に進んでください
2. 高等学校等に進学せずに就職した　→問20（7ページ）に進んでください
3. 就職して働きながら、高等学校等に進学もした　→問21（8ページ）に進んでください
4. 高等学校等に進学もせず、就職もしなかった　→問22（9ページ）に進んでください

※注　高等学校等
ここでは、高等学校（全日制、定時制、通信制）のほか、高等専門学校や専修学校・各種学校、特別支援学校高等部・高等特別支援学校を含みます。

問19　問 18 で「1. 就職せずに高等学校等に進学した」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、高等学校等に進学してからその後の状況について、次の質問に答えてください。

問 19-1　どの高等学校等に進学しましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1．全日制高校　2．定時制高校　3．通信制高校　4．高等専門学校
5．専修学校（専門学校）・各種学校　6．特別支援学校高等部・高等特別支援学校

全員

問 19-2　進学先での出席の状況はどうでしたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1．ほとんど休まなかった　2．少し休んだ　3．かなり休んだ　4．ほとんど休んだ

全員

問 19-3　進学先の卒業等の状況について、ひとつ選んで○をつけてください。

1．卒業・修了した　2．他の学校へ転学した　3．中退した　4．在学中

4.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

1.を選んだ方

2.を選んだ方

3.を選んだ方

問 19-5　転学後の進路について、あてはるものをひとつ選んで○をつけてください。

1．転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を卒業・修了した
2．転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を中退した
3．転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校に在学中

2.を選んだ方

問 19-6　中退後の状況について、あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

1．高等学校等に再度入学した
　a．全日制高校　b．定時制高校
　c．通信制高校　d．高等専門学校
　e．専修学校（専門学校）・各種学校
　f．特別支援学校高等部・高等特別支援学校
　※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2．就職した
3．高卒認定試験を受けた
4．就職も、再入学も、高卒認定試験受験もしなかった

1.を選んだ方

3.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

問 19-4　高等学校等を卒業・修了できた理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．勉強がおもしろかったから（興味のある分野の勉強ができたから）
2．気の合う友人がいたから
3．先生との関係がよかったから
4．部活が楽しかったから
5．小中学生の時の経験を理解してくれる友人、先輩や先生がいたから
6．自分で選んだ進路だから
7．就職するために必要な勉強だったから
8．高校（専修学校・各種学校）卒業の資格がほしかったから
9．家族が応援・協力してくれたから
10．親が退学を許さなかったから
11．その他（具体的に　　）

全員

問 19-10　高等学校等の卒業・修了後の進路について、あてはるものすべてに○をつけてください。

1．大学・短大・専門学校等に進学した
2．大学・短大・専門学校等に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
3．就職した
4．大学・短大・専門学校等を退学した
5．進学も就職もしていない

1.を選んだ方

2.を選んだ方

3.を選んだ方

4.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

問 19-7　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1．高等学校等を卒業・修了した
2．高等学校等を中退した
3．高等学校等に在学中

1.を選んだ方

2.または 3.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

問 19-8　その後の状況について、あてはまるものひとつ選んで○をつけてください。

1．仕事を続けている（転職した場合を含む）
2．仕事を辞めている（現在仕事についていない）

2.を選んだ方

問 19-9　その後の進路について、あてはるものすべてに○をつけてください。

1．大学・短大・専門学校等に進学した
2．大学・短大・専門学校等に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
3．就職した
4．大学・短大・専門学校等を退学した
5．進学も就職もしていない

1.を選んだ方

問 19-11　仕事を続けられている理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．生活するために働かなければならないから
2．仕事がおもしろいから
3．気の合う仕事仲間ができたから
4．上司との関係がよいから
5．小中学生の時の経験を理解してくれる仲間や上司がいるから
6．自分で選んだ仕事だから
7．給料が高いから
8．その他（具体的に　　）

※このページを答え終えたら、10 ページの問 23 にお進みください。

問20　問 18 で「2. 高等学校等に進学せずに就職した」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、就職してからその後の状況について、次の質問に答えてください。

問 20-1　どういった仕事につきましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. 正社員として会社などに勤めた
2. 家業を手伝った
3. パートやアルバイトとして会社などに勤めた
4. 自分で会社などを経営した

全員

問 20-2　その後の状況について、あてはまるものひとつを選んで○をつけてください。

1. 仕事を続けている（転職した場合を含む）
2. 仕事を辞めている（現在仕事についていない）

1.を選んだ方

問 20-3　仕事を続けられている理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 生活するために働かなければならないから
2. 仕事がおもしろいから
3. 気の合う仕事仲間ができたから
4. 上司との関係がよいから
5. 小中学生の時の経験を理解してくれる仲間や上司がいるから
6. 自分で選んだ仕事だから
7. 給料が高いから
8. その他（具体的に　　）

全員

2.を選んだ方

問 20-4　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高等学校等に進学した
   a. 全日制高校　b. 定時制高校　c. 通信制高校　d. 高等専門学校
   e. 専修学校（専門学校）・各種学校　f. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
   ※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2. 1.の高等学校等に進学せず、次のところに通った
   a. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
   b. 塾（進学塾、補習塾、進学予備校）
   c. 高卒認定試験予備校
   d. その他（具体的に　　）
3. 1.2.の学校等に通わず、高卒認定試験を受けた
4. 1.2.の学校等に通わず、高卒認定試験受験もしていない

※該当する番号を a～d から選んで○をつける

1.を選んだ方 / 2.を選んだ方 / 3.を選んだ方 / 4.を選んだ方

4.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

問 20-5　進学先での出席の状況はどうでしたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. ほとんど休まなかった
2. 少し休んだ
3. かなり休んだ
4. ほとんど休んだ

1.を選んだ方

全員

問 20-6　通学先を修了後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高等学校等に入学した
   a. 全日制高校　b. 定時制高校
   c. 通信制高校　d. 高等専門学校
   e. 専修学校（専門学校）・各種学校
   f. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
   ※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2. 高卒認定試験を受けた
3. 高等学校等に進学せず、高卒認定試験受験もしていない

2.を選んだ方 / 3.を選んだ方

問 20-7　その後の進路について、あてはるものすべてに○をつけてください。

1. 大学・短大・専門学校等に進学した
2. 大学・短大・専門学校等を退学した
3. 大学・短大・専門学校等に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
4. 進学していない

問 20-8　進学先の卒業等の状況について、ひとつ選んで○をつけてください。

1. 卒業・修了した
2. 他の学校へ転学した
3. 中退した
4. 在学中

4.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

3.を選んだ方

2.を選んだ方

1.を選んだ方

問 20-9　高等学校等を卒業・修了できた理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 勉強がおもしろかったから（興味のある分野の勉強ができたから）
2. 気の合う友人がいたから
3. 先生との関係がよかったから
4. 部活が楽しかったから
5. 小中学生の時の経験を理解してくれる友人、先輩や先生がいたから
6. 自分で選んだ進路だから
7. 就職するために必要な勉強だったから
8. 高校（専修学校・各種学校）卒業の資格がほしかったから
9. 家族が応援・協力してくれたから
10. 親が退学を許さなかったから
11. その他（具体的に　　）

問 20-10　転学後の進路について、あてはるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を卒業・修了した
2. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を中退した
3. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等に在学中

3.を選んだ方 / 2.を選んだ方 / 1.を選んだ方

問 20-11　中退後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 次の高等学校等に再度入学した
   a. 全日制高校　b. 定時制高校
   c. 通信制高校　d. 高等専門学校
   e. 専修学校（専門学校）・各種学校
   f. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
   ※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2. 1.の高等学校等に再度進学せずに、次のところに通った
   a. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
   b. 塾（進学塾、補習塾、進学予備校）
   c. 高卒認定試験予備校
   d. その他（具体的に　　）
   ※該当する番号を a～d から選んで○をつける
3. 1.2.の学校等に通わず、高卒認定試験を受けた
4. 1.2.の学校等に通わず、高卒認定試験受験もしていない

1.を選んだ方 / 3.を選んだ方 / 2.を選んだ方

問 20-12　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高等学校等を卒業・修了した
2. 高等学校等を中退した
3. 高等学校等に在学中

1.を選んだ方 / 2.または 3 を選んだ方

全員

問 20-13　その後の進路について、あてはるものすべてに○をつけてください。

1. 大学・短大・専門学校に進学した
2. 大学・短大・専門学校を退学した
3. 大学・短大・専門学校に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
4. 進学していない

問 20-14　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高卒認定試験を受けた
2. 高卒認定試験を受けなかった

2.を選んだ方 / 4.を選んだ方

2.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

※このページを答え終えたら、10 ページの問 23 にお進みください。

問21　問 18 で「3. 就職して働きながら、高等学校等に進学もした」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、就職して働きながら、高等学校等に進学もした場合、次の質問に答えてください。

＜進学についての質問＞

問 21-1　どの高等学校等に進学しましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. 全日制高校　　2. 定時制高校
3. 通信制高校　　4. 高等専門学校
5. 専修学校（専門学校）・各種学校
6. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校

全員

問 21-3　進学先での出席の状況はどうでしたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. ほとんど休まなかった　　2. 少し休んだ
3. かなり休んだ　　4. ほとんど休んだ

全員

問 21-5　進学先の卒業等の状況について、ひとつ選んで○をつけてください。

1. 卒業・修了した　　2. 他の学校へ転学した
3. 中退した　　4. 在学中

1.を選んだ方　2.を選んだ方　3.を選んだ方　4.を選んだ方 → 就職についての質問が終わりましたら 10 ページの問 23 にお進みください。

問 21-8　転学後の進路について、あてはるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を卒業・修了した
2. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を中退した
3. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等に在学中

1.を選んだ方　3.を選んだ方

就職についての質問が終わりましたら 10 ページの問 23 にお進みください。

問 21-7　高等学校等を卒業・修了できた理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 勉強がおもしろかったから（興味のある分野の勉強ができたから）
2. 気の合う友人がいたから
3. 先生との関係がよかったから
4. 部活が楽しかったから
5. 小中学生の時の経験を理解してくれる友人、先輩や先生がいたから
6. 自分で選んだ進路だから
7. 就職するために必要な勉強だったから
8. 高校（専修学校・各種学校）卒業の資格がほしかったから
9. 家族が応援・協力してくれたから
10. 親が退学を許さなかったから
11. その他（具体的に　　）

全員

問 21-11　その後の進路について、あてはるものすべてに○をつけてください。

1. 大学・短大・専門学校に進学した
2. 大学・短大・専門学校を退学した
3. 大学・短大・専門学校に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
4. 進学していない

→ 就職についての質問が終わりましたら 10 ページの問 23 にお進みください。

2.を選んだ方 → **問 21-9　中退後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。**

1. 次の高等学校等に再度入学した
   a. 全日制高校　　b. 定時制高校
   c. 通信制高校　　d. 高等専門学校
   e. 専修学校（専門学校）・各種学校
   f. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
   ※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2. 1.の高等学校等に再度進学せずに、次のところに通った
   a. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
   b. 塾（進学塾、補習塾、進学予備校）
   c. 高卒認定試験予備校
   d. その他（具体的に　　）
   ※該当する番号を a～d から選んで○をつける
3. 1.2.の学校等に通わず、高卒認定試験を受けた
4. 1.2.の学校等に通わず、高卒認定試験受験もしていない

1.を選んだ方　2.を選んだ方　3.を選んだ方　4.を選んだ方

問 21-10　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高等学校等を卒業・修了した
2. 高等学校等を中退した
3. 高等学校等に在学中

1.を選んだ方 → 問 21-7 へ
2.または 3.を選んだ方 → 就職についての質問が終わりましたら 10 ページの問 23 にお進みください。

問 21-12　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高卒認定試験を受けた
2. 高卒認定試験を受けなかった

1.を選んだ方 → 問 21-11 へ
2.を選んだ方 → 就職についての質問が終わりましたら 10 ページの問 23 にお進みください。

＜就職についての質問＞

問 21-2　どういった仕事につきましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. 正社員として会社などに勤めた
2. 家業を手伝った
3. パートやアルバイトとして会社などに勤めた
4. 自分で会社などを経営した

全員

問 21-4　その後の状況について、ひとつ選んで○をつけてください。

1. 仕事を続けている（転職した場合を含む）
2. 仕事を辞めている（現在仕事をしていない）

1.を選んだ方

問 21-6　仕事を続けられている理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 生活するために働かなければならないから
2. 仕事がおもしろいから
3. 気の合う仕事仲間ができたから
4. 上司との関係がよいから
5. 小中学生の時の経験を理解してくれる仲間や上司がいるから
6. 自分で選んだ仕事だから
7. 給料が高いから
8. その他（具体的に　　）

2.を選んだ方 → 進学についての質問が終わりましたら 10 ページの問 23 にお進みください。

※このページを答え終えたら、10 ページの問 23 にお進みください。

問22　問 18 で「4. 高等学校等に進学もせず、就職もしなかった」を選んだ方にお聞きします。中学校を卒業してすぐの時点（4月時点）で、高等学校等に進学もせず、就職もしなかった場合、次の質問に答えてください。

問 22-1　その後の進路について、中学校卒業後現在までの間で、あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

1. 高等学校等に進学した（※該当する番号を a～f から選んで○をつける）
   a. 全日制高校　b. 定時制高校　c. 通信制高校　d. 高等専門学校
   e. 専修学校（専門学校）・各種学校　f. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
   ※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2. 次のところに通った（※該当する番号を a～d から選んで○をつける）
   a. 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）　b. 塾（進学塾、補習塾、進学予備校）
   c. 高卒認定試験予備校　d. その他（具体的に　　）
3. 就職した
4. 1.2.の学校等に通わず、就職もしていない

1.を選んだ方

問 22-2　進学先での出席の状況はどうでしたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. ほとんど休まなかった
2. 少し休んだ
3. かなり休んだ
4. ほとんど休んだ

全員

問 22-5　進学先の卒業等の状況について、ひとつ選んで○をつけてください。

1. 卒業・修了した
2. 他の学校へ転学した
3. 中退した
4. 在学中

1.を選んだ方

問 22-8　高等学校等を卒業・修了できた理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 勉強がおもしろかったから（興味のある分野の勉強ができたから）
2. 気の合う友人がいたから
3. 先生との関係がよかったから
4. 部活が楽しかったから
5. 小中学生の時の経験を理解してくれる友人、先輩や先生がいたから
6. 自分で選んだ進路だから
7. 就職するために必要な勉強だったから
8. 高校（専修学校・各種学校）卒業の資格がほしかったから
9. 家族が応援・協力してくれたから
10. 親が退学を許さなかったから
11. その他（具体的に　　）

全員

問 22-13　その後の進路について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 大学・短大・専門学校に進学した
2. 大学・短大・専門学校を退学した
3. 大学・短大・専門学校に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
4. 進学していない

2.を選んだ方

問 22-3　通学先を修了後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高卒認定試験を受けた
2. 高卒認定試験を受けなかった

1.を選んだ方

問 22-6　その後の進路について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 大学・短大・専門学校に進学した
2. 大学・短大・専門学校を退学した
3. 大学・短大・専門学校に入学するため勉強した（している）（予備校に通う場合を含む）
4. 進学していない

2.を選んだ方

問 22-9　転学後の進路について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を卒業・修了した
2. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等を中退した
3. 転学した先（複数回、転学した場合を含む）の高等学校等に在学中

1.を選んだ方

問 22-12　その後の状況について、あてはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 高等学校等を卒業・修了した
2. 高等学校等を中退した
3. 高等学校等に在学中

1.を選んだ方

問 22-10　中退後の状況について、あてはまるものをすべて選んで○をつけてください。

1. 次の高等学校等に再度入学した
   a. 全日制高校　b. 定時制高校
   c. 通信制高校　d. 高等専門学校
   e. 専修学校（専門学校）・各種学校
   f. 特別支援学校高等部・高等特別支援学校
   ※該当する番号を a～f から選んで○をつける
2. 高卒認定試験を受けた
3. 高等学校等に再度入学せず、高卒認定試験受験もしていない

3.を選んだ方

問 22-4　どういった仕事につきましたか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. 正社員として会社などに勤めた
2. 家業を手伝った
3. パートやアルバイトとして会社などに勤めた
4. 自分で会社などを経営した

全員

問 22-7　その後の状況について、ひとつ選んで○をつけてください。

1. 仕事を続けている（転職した場合を含む）
2. 仕事を辞めている（現在仕事をしていない）

1.を選んだ方

問 22-11　仕事を続けられている理由はどのようなものだと考えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 生活するために働かなければならないから
2. 仕事がおもしろいから
3. 気の合う仕事仲間ができたから
4. 上司との関係がよいから
5. 小中学生の時の経験を理解してくれる仲間や上司がいるから
6. 自分で選んだ仕事だから
7. 給料が高いから
8. その他（具体的に　　）

4.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

2.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

2.または 3.を選んだ方 → 10 ページの問 23 にお進みください。

※このページを答え終えたら、10 ページの問 23 にお進みください。

3．現在のあなたの生活についてお聞きします。（問 23～問 31）

問23 現在、誰と暮らしていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．母親	2．父親	3．きょうだい	4．祖父母	5．妻・夫
6．子ども	7．友人	8．ひとり	9．その他（＿＿＿＿＿＿＿＿）	

問24 現在、何か仕事についていますか。ひとつ選んで○をつけてください。

1．正社員として会社などに勤めている
2．家業を手伝っている
3．パート、アルバイトとして会社などに勤めている
4．自分で会社などを経営している
5．その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
6．とくに仕事にはついていない

問25 現在、どこか学校に通っていますか。ひとつ選んで○をつけてください。

1．全日制高校	2．定時制高校	3．通信制高校	4．高等専門学校
5．専修学校（専門学校）・各種学校		6．特別支援学校高等部・高等特別支援学校	
7．短期大学	8．大学	9．１～8 には通っていない	

問26 現在、問 25 であげた学校以外のところに通っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．塾（進学塾や補習塾、進学予備校など）
2．高卒認定試験予備校
3．サポート校
4．技能連携校
5．民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
6．その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
7．通っていない

問27 中学校を卒業した頃と比べて現在の自分が成長したのはどんなところですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1．身のまわりのことが自分でできること
2．身体が健康になったこと
3．生活のリズムがつくれること
4．自分で働いて収入を得ようとすること
5．人とうまくつきあえること
6．人の痛みがわかるようになったり、人に対して優しくなったこと
7．自分に自信が持てること
8．家族との関係が改善されたこと
9．将来の希望が持てること
10．かっとしたり、いらいらしたりしなくなったこと
11．いつまでもくよくよ悩まなくなったこと
12．自分の気持ちをはっきり表現できること
13．孤独に耐えられること
14．学力が身に付いていること
15．その他（具体的にご記入ください＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
16．成長したとは思えない

問28 問 27 で 1～15 の回答を選んだ方にお聞きします。どのような人のアドバイスやはげましが支えになりましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 母親	2. 父親	3. きょうだい	4. 祖父母	5. 先輩・友人
6. 仕事の上司・同僚	7. 妻・夫	8. 子ども	9. その他（　　）	
10. 特にない				

問29 小中学生の頃に不登校だったために、そのことを問題にされて中学校卒業以降、不利益や不当なあつかいをうけたことがありますか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. おおいにあった	2. 少しはあった	3. まったくなかった

問30 小中学生の頃に不登校だったために、中学校卒業後今までに、次のようなことがありましたか。a.～d.のそれぞれのことであてはまるものをひとつずつ選んで○をつけてください。

	1. おおいにあった	2. 少しあった	3. まったくなかった
a.受験（資格試験、就職試験を含む）や仕事などで苦労した	1	2	3
b.体力が低下したり不足したりして苦労した	1	2	3
c.生活リズムが乱れ苦労した	1	2	3
d.他人との関わりに不安を感じることがあった	1	2	3

問31 現在のあなたの状態は、かつて不登校であったことがマイナスに影響していると感じていますか。最も近いものひとつ選んで○をつけてください。

1. 感じている	2. 感じていない	3. どちらともいえない

4. これから将来の生活の見通しについてお聞きします。（問 32～問 36）

問32 将来つきたい仕事ややってみたい仕事がありますか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. ある	2. ない	3. すでにやりたい仕事についている

問33 自分の将来について夢や希望がありますか。ひとつ選んで○をつけてください。

1. ある	2. ぼんやりとある	3. ない

問34 これからの生活を設計していくにあたって、次のような相談や手助けなどがあればいいのにと思ったことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 進学するための相談や手助け
2. 仕事につくための相談や手助け
3. 学校の勉強についての相談や手助け
4. 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け
5. 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりする方法についての指導
6. 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所
7. 心の悩みについての相談
8. 規則正しい生活習慣についての指導
9. その他（具体的にご記入ください　　）
10. とくにない

問35　先生や学校、教育委員会、文部科学省に望むことなどを自由にお書きください。
（あなた自身やあなたと関わりのある個人が特定されるようなこと（人名、地域名、学校名等）は記入しないでください。）

問36　ご協力ありがとうございました。
私たちは皆さんのお答えを参考にし、今後さらに電話などでより詳しい内容をお聞かせいただきたいと考えております。ご協力いただけるでしょうか。ひとつ選んで○をつけてください。

1.　協力する
2.　あとで考えるからもう一度連絡がほしい
3.　協力できない

◆（1, 2 のいずれかを選んだ方）

ご協力いただける場合は、別紙の連絡先記入用紙にお名前と連絡先のご住所、電話番号を記入し、調査票と一緒にご返送ください。
なお、返送いただいた連絡先は、電話などでより詳しいお話を聞くときの連絡の目的以外には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました。

アンケートはこれですべて終わりです。

同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

3月2日（金）までをめどに、

郵便ポストに投函してください。

付　　録

資料１　学校回避スコアについて

資料２　不利益スコア（disbenefit score）の作成

資料３　成長スコア（growing score）の作成

資料１

学校回避スコアについて

今回の調査では、回答者が「不登校」であったことを、「現在」どのように総括しているかということを聞いた質問が複数用意されている。回答者が「中学校３年生の時をふりかえってみて」、当時どのような「気持ち」であったのかということを聞いた質問が「問 8」であり、「小中学生の頃、不登校で学校に行かなかった」ということについて、「今」どのように思っているかを聞いたものが「問 13」である。なお、「問８」は 3 個の下位質問からなっており、「a　特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった」(問８a)、「b　自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった」(問８b)、「c　学校へ行きたかったが、行けなかった」（問８c)、という三つの「気持ち」について、それぞれ、「1.そう思う」「2.少しそう思う」「3.そう思わない」という選択肢から選んで回答するという質問形式になっている。

「問 8」を構成している三つの質問と「問 13」に対する回答には、当然のことながら、かなり強い相関がうかがえる。次の表は、これら四つの変数間の関連の強さを見たものである（表中にはクロス集計表の関連の有無とその「強さ」を示す AIC（Akaike's Information Criterion）の値が示されている。この AIC は、その値が「負」であればクロス集計表の当該 2 変数は独立ではない（すなわち、何らかの関連がある）ということを示しており、さらには、その値が「小さい」ほど 2 変数間の関連は「強い」ということを意味している)。

$aic

	Q08a	Q08b	Q08c	Q13
Q08a	NA	NA	NA	NA
Q08b	-61.087	NA	NA	NA
Q08c	-246.079	-14.616	NA	NA
Q13	-120.634	-10.916	-178.837	NA

表中の AIC の値はすべて負であるので、これらの四つの質問への回答には「何らかの」関連があるということがわかる。しかし同時に、それらの関連の「強さ」に関しては、かなり大きな違いがあることも、この表には示されている。具体的には、Q08b は他の三変数と比べると、その他の変数との関連の度合いはかなり小さくなっている（上記の AIC の表の下線部分の値を参照)。Q08a、Q08c、Q13 の三つの変数間には相互にきわめて強い関連がみられるが（AIC の値はそれぞれ、-246.1、-120.6、-178.8)、これと比べると、Q08b の他の三変数に対する関連の度合いはかなり小さくなっていることがわかる（-61.1、-14.6、-10.9)。すなわち「問 8a」「問 8c」「問 13」の三つの質問に対する回答は相互にかなり密接に関連しているが、それらに比べると、「問 8b」への回答は他の三つの質問への回答との関連はそれほど強くはないということなのである。そこで、分析のモデルを単純化するために、以下では Q08b（問 8b に対する回答変数）を除外して分析を進めることとする

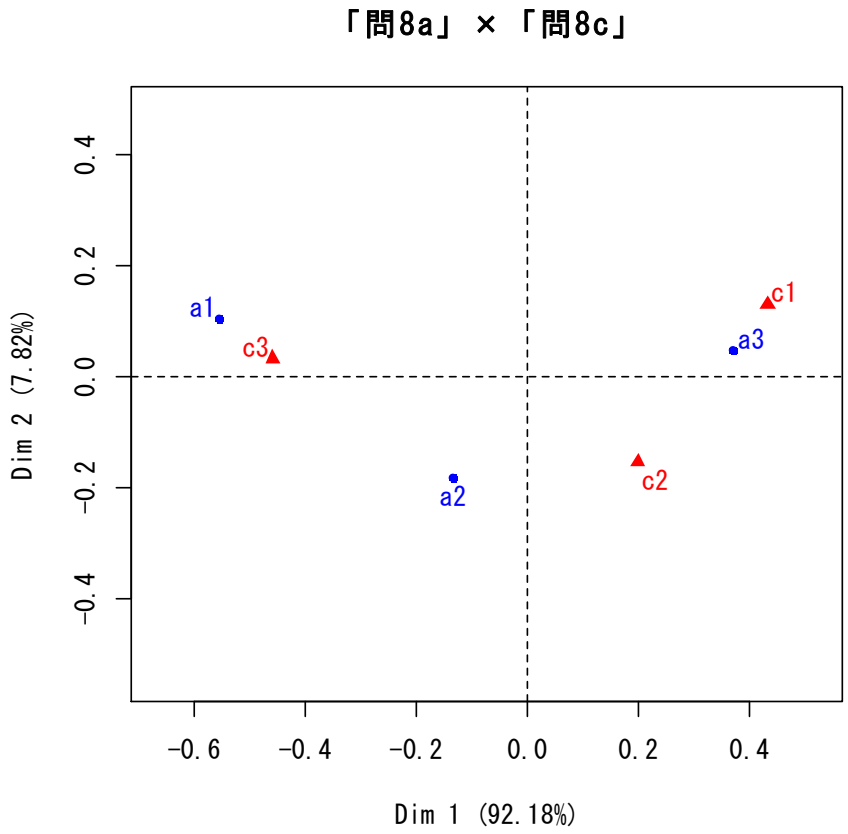
以下の三つの集計表と散布図は、これら三変数（Q08a、Q08b、Q13）間のクロス集計結果と、そのクロス集計表の「対応分析」の結果を図示したものである（三変数の組み合わせで、合計三個のクロス集計表が作成される。なおクロス集計表にはそれぞれ度数と調整済みの標準化残差が示されている)。

「問 8a」 × 「問 8c」

```
> CrossTable(table(Q08a,Q08c))
   Cell Contents
```

Q08a	Q08c 1	2	3	Total
1	55	72	269	396
	-7.20	-6.74	**12.98**	
2	73	154	183	410
	-5.31	**2.94**	**2.07**	
3	302	264	170	736
	11.00	**3.30**	-13.19	
Total	430	490	622	1542

```
Pearson's Chi-squared test
------------------------------------------------------------
Chi^2 = 250.4542      d.f. = 4      p = 5.196637e-53
```

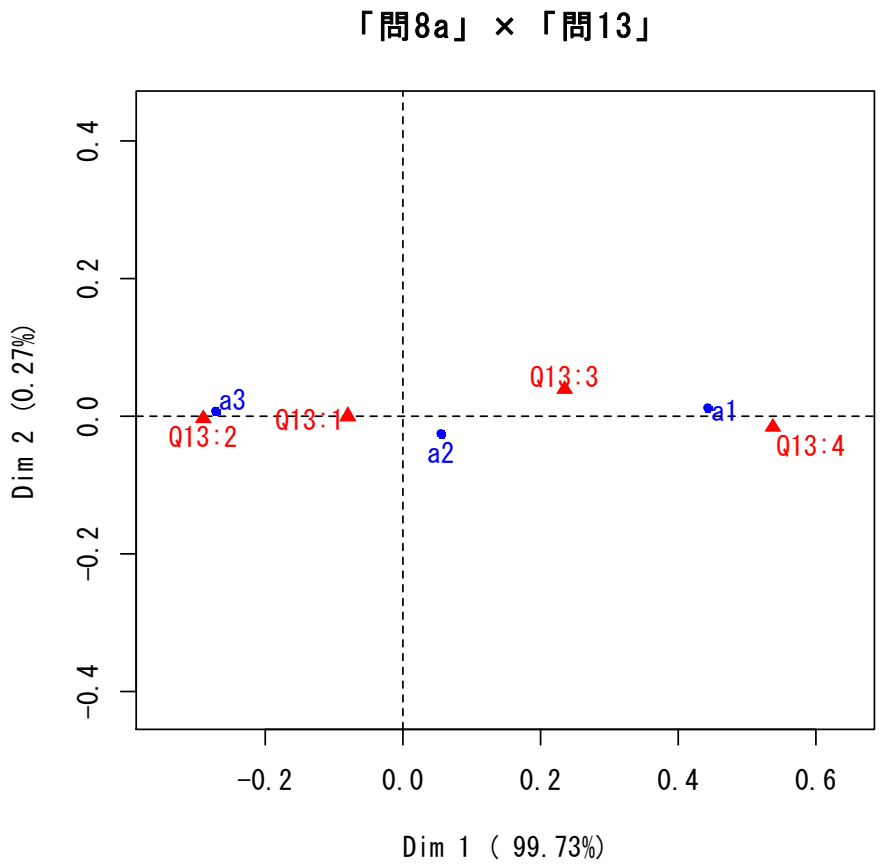


 # 「問 8a」 × 「問 13」

```
> CrossTable(Q08a,Q13)
```

Q08a	Q13 1	2	3	4	Total
1	134	69	64	123	390
	-2.20	-6.85	**3.24**	**8.44**	
2	156	122	47	80	405
	-0.25	-0.73	-0.18	1.37	
3	300	286	68	62	716
	2.16	**6.65**	-2.68	-8.61	
Total	590	477	179	265	1511

```
Pearson's Chi-squared test
------------------------------------------------------------
Chi^2 = 130.8       d.f. = 6       p = 8.720391e-26
```

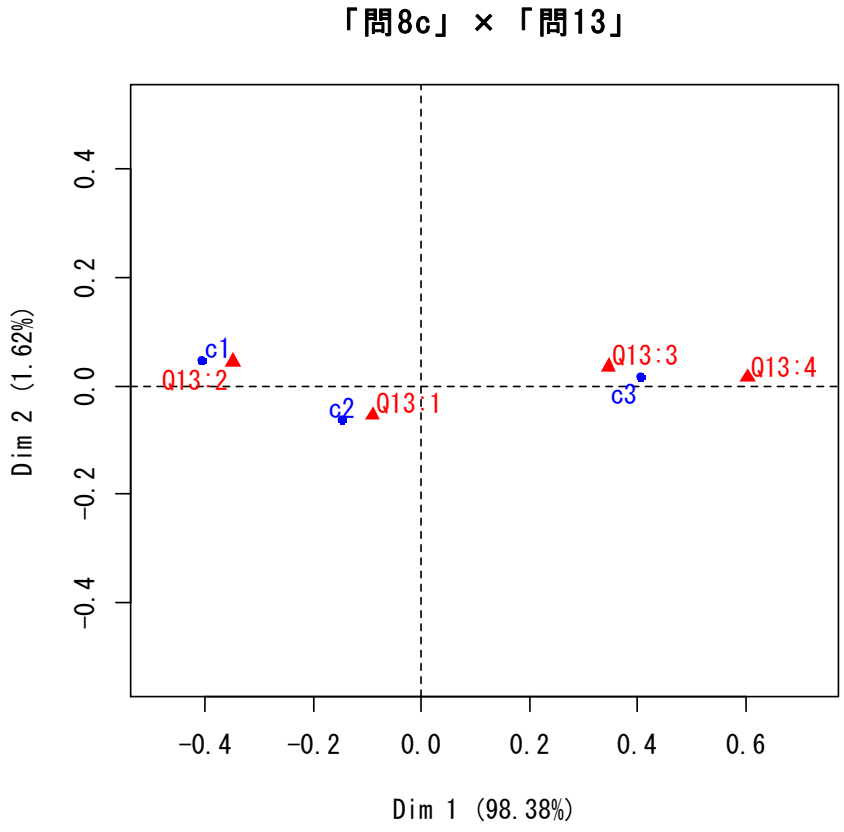


「問 8c」 × 「問 13」

```
> CrossTable(Q08c,Q13)
   Cell Contents
|-------------------------|
|                   Count |
|           Adj Std Resid |
|-------------------------|

=============================================
          Q13
Q08c          1       2       3       4   Total
---------------------------------------------
1           177     199      32      23     431
            0.96    7.66   -3.32   -7.81
---------------------------------------------
2           212     167      46      61     486
            2.44    1.57   -1.92   -3.43
---------------------------------------------
3           209     117     102     182     610
           -3.20   -8.53    4.88   10.43
---------------------------------------------
Total       598     483     180     266    1527
=============================================

Pearson's Chi-squared test
-------------------------------------------------------------
Chi^2 = 184.9609       d.f. = 6       p = 2.997109e-37
```



クロス集計表（と対応分析の結果の散布図）から、三変数間にはかなりはっきりとした線形関係があることが読み取れる（いずれの場合も、各変数のばらつきの 90%以上が 1 次元で表現できることからも、このことがわかる）。しかし各変数のコード（変数値）がその順序関係とは一致していないので、この線形関係の強さを見ることが難しくなっている。そこで、ここでは Q08c を基準にして、残りの二変数（Q08a と Q13）のコードを Q08c に合わせてリコードする。具体的には、Q08a の変数値を「1→3」「3→1」とリコードし（1 と 3 を入れ替え）、Q13 のそれを「1→2」「2→1」とリコードする（1 と 2 を入れ替え）。

以下、リコードした変数によって、三変数（Q08aN、Q08c、Q13N）間の関連を再度確認しておこう。各クロス表において対角線上の標準化残差の値が大きくなっており、そこからは、正の相関関係がはっきりと見て取れる。

 # 「問 8a」 × 「問 8c」

```
> CrossTable(Q08aN,Q08c)

=====================================
          Q08c
Q08aN        1       2       3   Total
-------------------------------------
1          302     264     170     736
          11.00    3.30  -13.19
-------------------------------------
2           73     154     183     410
          -5.31    2.94    2.07
-------------------------------------
3           55      72     269     396
          -7.20   -6.74   12.98
-------------------------------------
Total      430     490     622    1542
=====================================
Pearson's Chi-squared test
-------------------------------------------------------------
Chi^2 = 250.4542      d.f. = 4      p = 5.196637e-53
```

 # 「問 8a」 × 「問 13」

```
=============================================
          Q13N
Q08aN        1       2       3       4   Total
---------------------------------------------
1          286     300      68      62     716
          6.65    2.16   -2.68   -8.61
---------------------------------------------
2          122     156      47      80     405
          -0.73   -0.25   -0.18    1.37
---------------------------------------------
3           69     134      64     123     390
          -6.85   -2.20    3.24    8.44
---------------------------------------------
Total      477     590     179     265    1511
=============================================
Pearson's Chi-squared test
-------------------------------------------------------------
Chi^2 = 130.8      d.f. = 6      p = 8.720391e-26
```

「問 8c」×「問 13」

```
> CrossTable(Q08c,Q13N)

=============================================
           Q13N
Q08c          1       2       3       4   Total
---------------------------------------------
1           199     177      32      23     431
            7.66    0.96   -3.32   -7.81
---------------------------------------------
2           167     212      46      61     486
            1.57    2.44   -1.92   -3.43
---------------------------------------------
3           117     209     102     182     610
           -8.53   -3.20    4.88   10.43
---------------------------------------------
Total       483     598     180     266    1527
=============================================
Pearson's Chi-squared test
-------------------------------------------------------------
Chi^2 = 184.9609      d.f. = 6      p = 2.997109e-37
```

確認のために、このリコードした 3 変数間の順序相関係数（ポリコリック相関係数）を計算する。この表から、３変数間には、明確に、かなり強い線形関係（正の相関）があることが分かる。

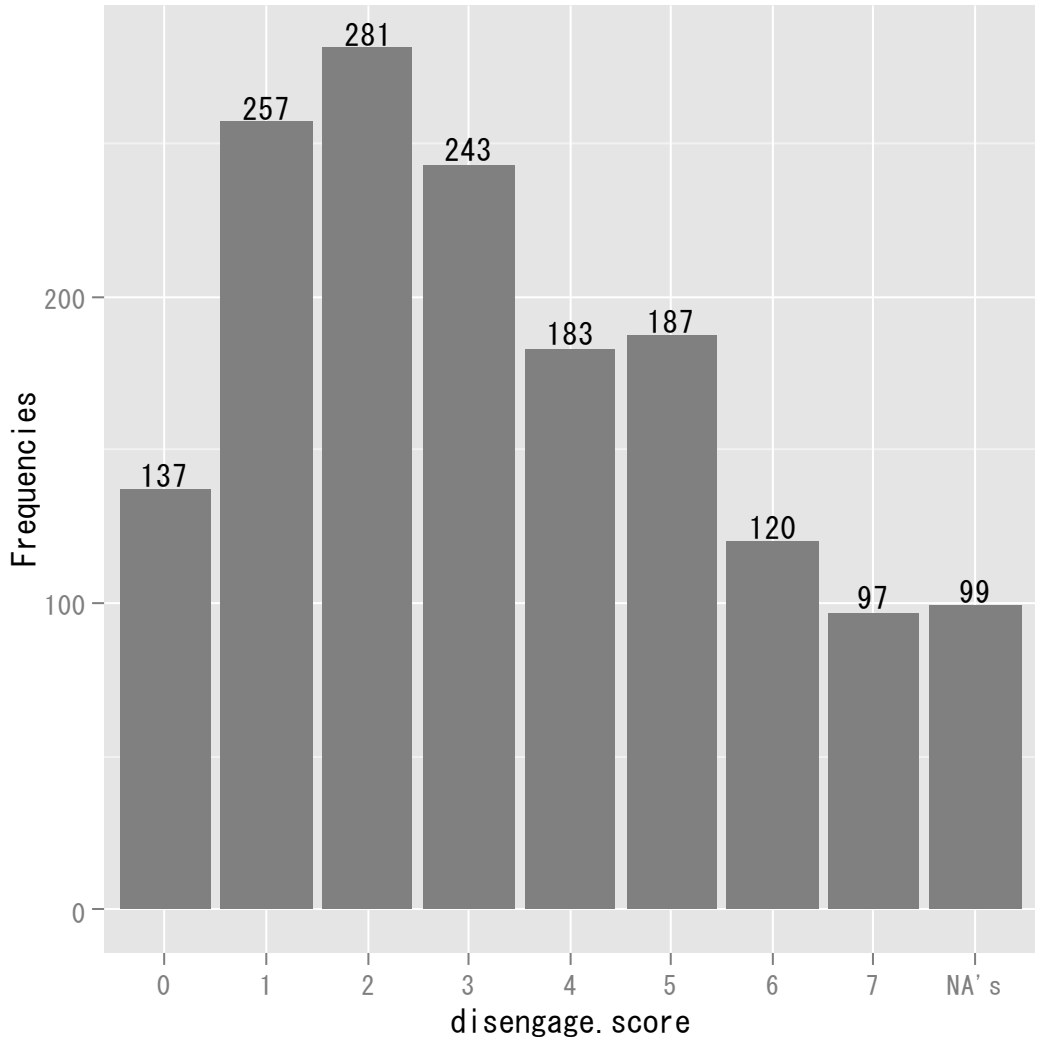
```
> polychor.df(data.frame(Q08aN,Q08c,Q13N))
$rho
          Q08aN       Q08c Q13N
Q08aN 1.0000000 0.0000000    0
Q08c  0.4812308 1.0000000    0
Q13N  0.3456562 0.4051504    1
```

以上から、回答者の「問 8a」「問 8c」「問 13」に対する回答には、かなり強い「正の」相関関係があることが明らかである。これら３変数の **Cronbach の alpha 係数**を算出すると、その値は 0.59 である。変数の数が少ないので alpha 値はそれほど大きくはないが、これら３変数間にはかなり強い正の相関関係があることが分かる。そして、このことは、これらの３変数がともに、何か共通の「あるもの」を測っている（あるいは指し示している）ということを意味している。この「あるもの」を明らかにする必要がある。そのために、ここでは、これら３変数の値を加算して合成変数（ここではこの変数名を **disengage.score** としておく）を作成し、この合成変数と他の変数との関連を見ることによって、この「あるもの」を明らかにする。

次の集計表と barchart は上で作成した **disengage.score** の分布を示したものである。なお、この disengage.score の全体の平均値は **3.07** である。

disengage.score

	Frequency	Percent	Valid Percent
0	137	8.541	9.103
1	257	16.022	17.076
2	281	17.519	18.671
3	243	15.150	16.146
4	183	11.409	12.159
5	187	11.658	12.425
6	120	7.481	7.973
7	97	6.047	6.445
NA's	99	6.172	
Total	1604	100.000	100.000



資料２

不利益スコア（disbenefit score）の作成

今回の調査では、回答者が中学校時代に不登校であったことによって、現在までのあいだにどのような「不利益」「不当なあつかい」や「現在の状態」への「マイナスの影響」があった（あるいはなかった）と「現時点で」認識しているかを聞いた質問が 6 問（問 29、問 30a、問 30ｂ、問 30ｃ、問 30ｄ、問 31）用意されている。これらの質問は、その質問文や問いの「直接的な」対象は異なっているが､すべて不登校経験がもたらしたマイナスの影響をたずねているという点では共通しており、その意味ではある「同じ」ものを、あるいは事柄を、さまざまな観点からたずねたものであると考えられる。そこで、ここではまず最初に、これら 6 質問がなにか「同じ」ものを測っているとみなすことができるかどうか、ということを検討する。
この 6 質問への回答はすべて順序変数とみなすことができる（たとえば「1.おおいにあった」「2.少しあった」「3.まったくなかった」）が、しかしそれぞれの質問においてその「順序」が同一ではない。そこで、これら 6 変数の順序を合わせた新しい変数を作成し（Q29N、Q30a、Q30b、Q30c、Q30d、Q31N）、次にその順位相関マトリックスを求めてみた。

```
> tmp <- cbind(Q29N,Q30aN,Q30bN,Q30cN,Q30dN,Q31N)
> polychor.df(tmp)
$rho
          [,1]      [,2]      [,3]      [,4]      [,5] [,6]
[1,] 1.0000000 0.0000000 0.0000000 0.0000000 0.0000000    0
[2,] 0.4834651 1.0000000 0.0000000 0.0000000 0.0000000    0
[3,] 0.2277287 0.2898699 1.0000000 0.0000000 0.0000000    0
[4,] 0.2504326 0.2977022 0.6474528 1.0000000 0.0000000    0
[5,] 0.2701312 0.3585442 0.5173306 0.4464787 1.0000000    0
[6,] 0.2990105 0.3391753 0.3777674 0.3558169 0.4370365    1

$std.err
           [,1]       [,2]       [,3]       [,4]       [,5] [,6]
[1,]         NA         NA         NA         NA         NA   NA
[2,] 0.02874712         NA         NA         NA         NA   NA
[3,] 0.03416868 0.03024131         NA         NA         NA   NA
[4,] 0.03374961 0.03017245 0.01944166         NA         NA   NA
[5,] 0.03370208 0.02932588 0.02443449 0.02640758         NA   NA
[6,] 0.03267030 0.02942667 0.02791612 0.02843590 0.02678512   NA
```

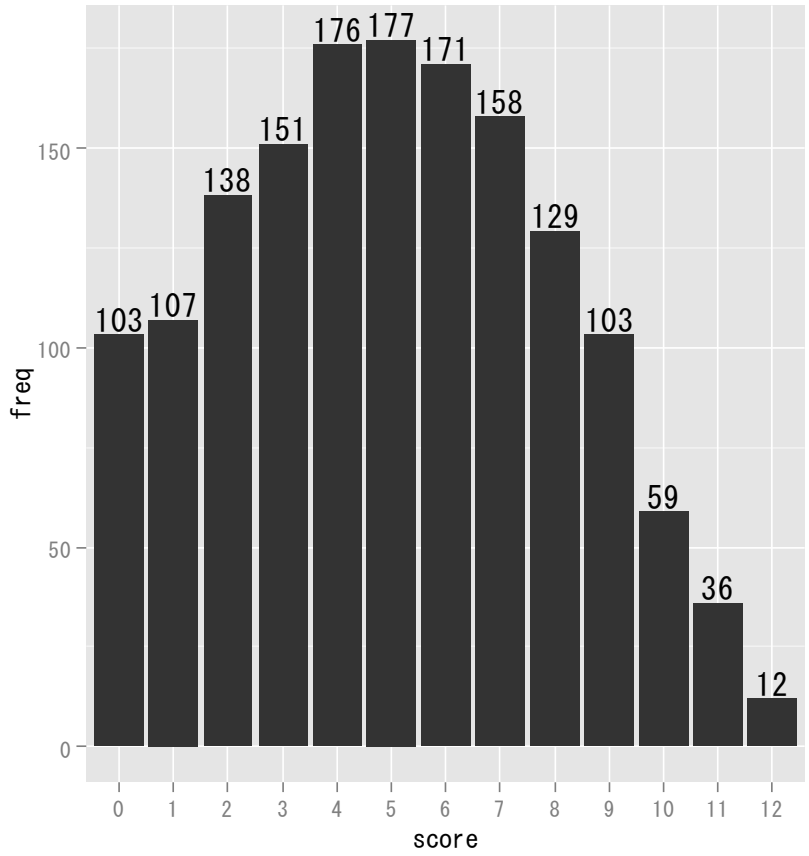
この相関マトリックスから､これら 6 変数間にはすべて統計的に有意な正の相関があることがわかる。そして、その相関の程度もカテゴリカルな順序変数としてはかなり大きい。そこで次に、これら 6 変数を加算して､「不登校経験がもたらしたマイナスの影響」（の認識）の程度を測る尺度変数を構成可能かどうかを確認する。具体的には、これら 6 変数からなるデータについて、そのクロンバッハ（Cronbach）の alpha 信頼係数を算出する。

```
> alpha(tmp,detail=T)
alpha = 0.70980

       alpha_      r_      R_
Q29N  0.70284 0.32190 0.15190
Q30aN 0.68479 0.39671 0.20020
Q30bN 0.64559 0.51740 0.34964
Q30cN 0.65363 0.49339 0.31724
Q30dN 0.65502 0.48946 0.25531
Q31N  0.67558 0.42602 0.18526
alpha_ : それぞれの変数を除いたときの alpha
r_     : それぞれの変数とその変数を除いたときの合計値との相関係数
R_     : それぞれの変数をその変数以外の変数で予測したときの決定係数
```

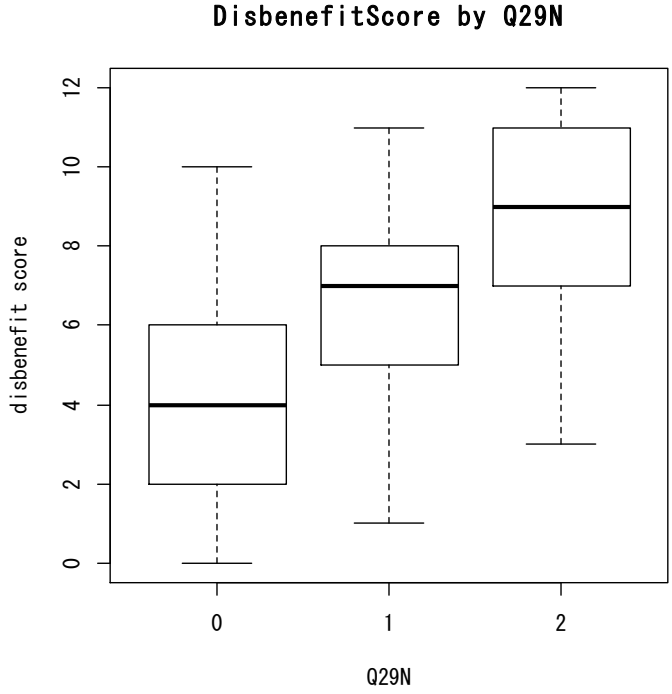
算出された alpha は 0.71 とかなり高く、尺度変数として使うことができることがわかった。そこで、この 6 変数を単純加算して **disbenefit という新しい変数**を作成する。この変数は 0 から 12 までの 13 段階のスコア値をとる。以下は、その分布を示したものである。

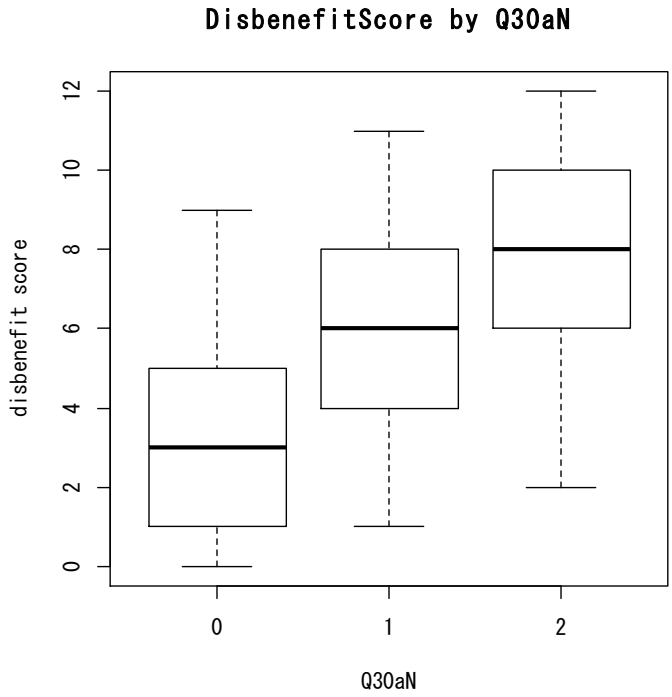
```
> tmp <- data.frame(score=factor(0:12),freq=as.vector(table(disbenefit)))
> ggplot(tmp, aes(x = score, y = freq)) + geom_bar(stat = "identity") +
geom_text(aes(label=freq),vjust=-0.2)
```

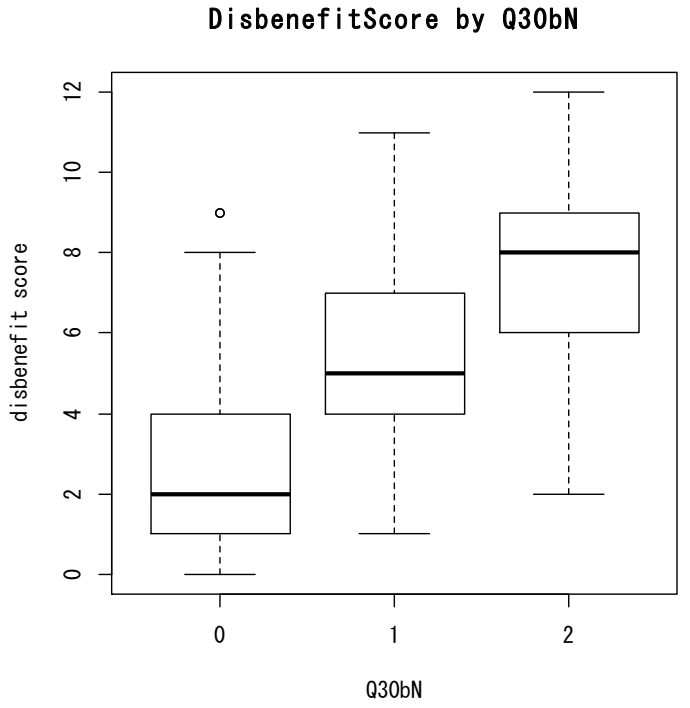


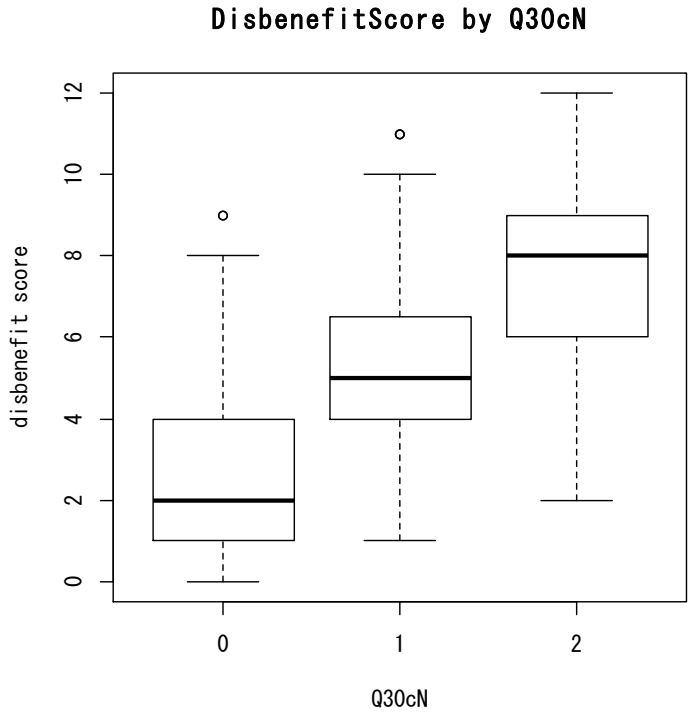
なお、この変数が確かに「不登校経験がもたらしたマイナスの影響」（の認識）の程度を測って

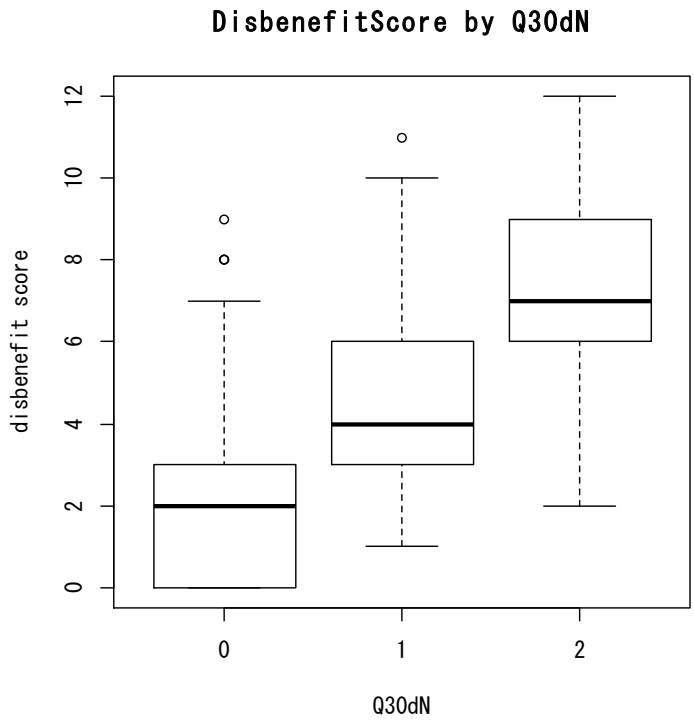
いるということを確認するために作成したものが（図●）から（図●）までの 6 個の boxplot である。これらのグラフからも、disbenefit 変数が問 29 から問 31 までの 6 変数をうまく要約・統合していることが見て取れる。

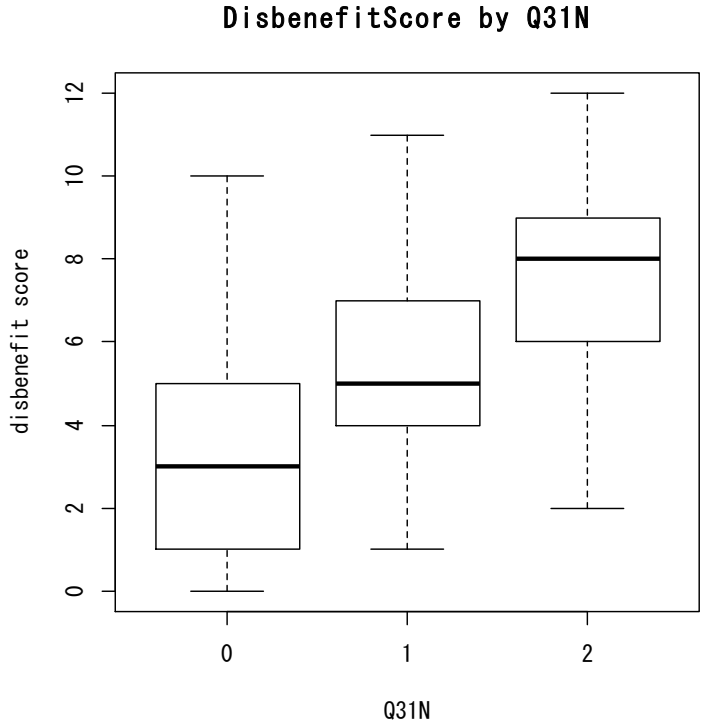





DisbenefitScore by Q30bN
disbenefit score
0
2
4
6
8
10
12
0
1
2
Q30bN


DisbenefitScore by Q30cN
disbenefit score
0
2
4
6
8
10
12
0
1
2
Q30cN


DisbenefitScore by Q30dN
disbenefit score
0
2
4
6
8
10
12
0
1
2
Q30dN

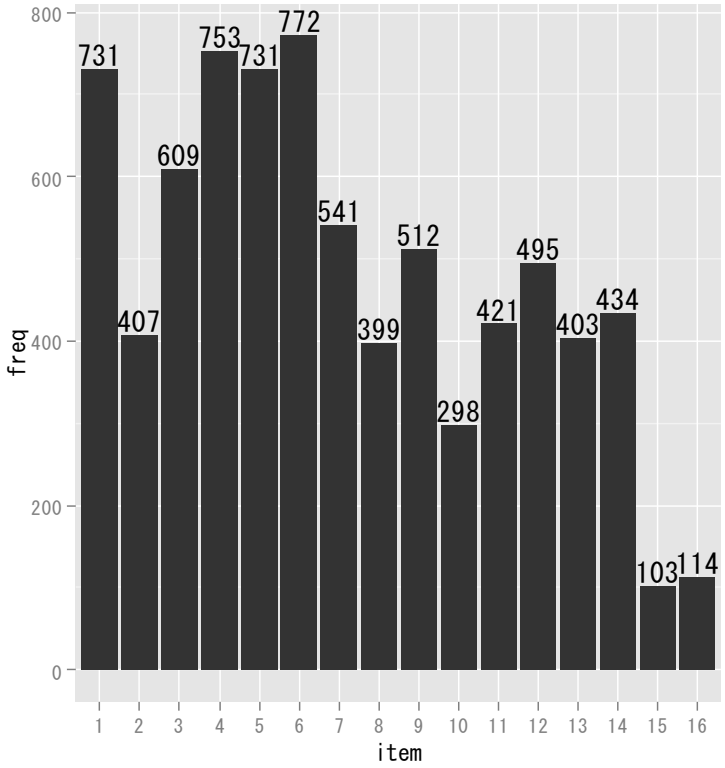

DisbenefitScore by Q31N
disbenefit score
0
2
4
6
8
10
12
0
1
2
Q31N

資料３

成長スコア（growing score）の作成

以下の図は、「問 27、中学校を卒業した頃と比べて現在の自分が成長したのはどんなところですか」という質問における各項目の選択者数を bar chart で示したものである（質問形式は 16 個の選択肢からなるマルチプル・アンサー形式）。

```
> tmp <- data.frame(item=factor(1:16),freq=mchoice(data[,NQ27])[,4])
> ggplot(tmp, aes(x = item, y = freq)) + geom_bar(stat = "identity") + geom_text(aes(label=freq),vjust=-0.2)
```



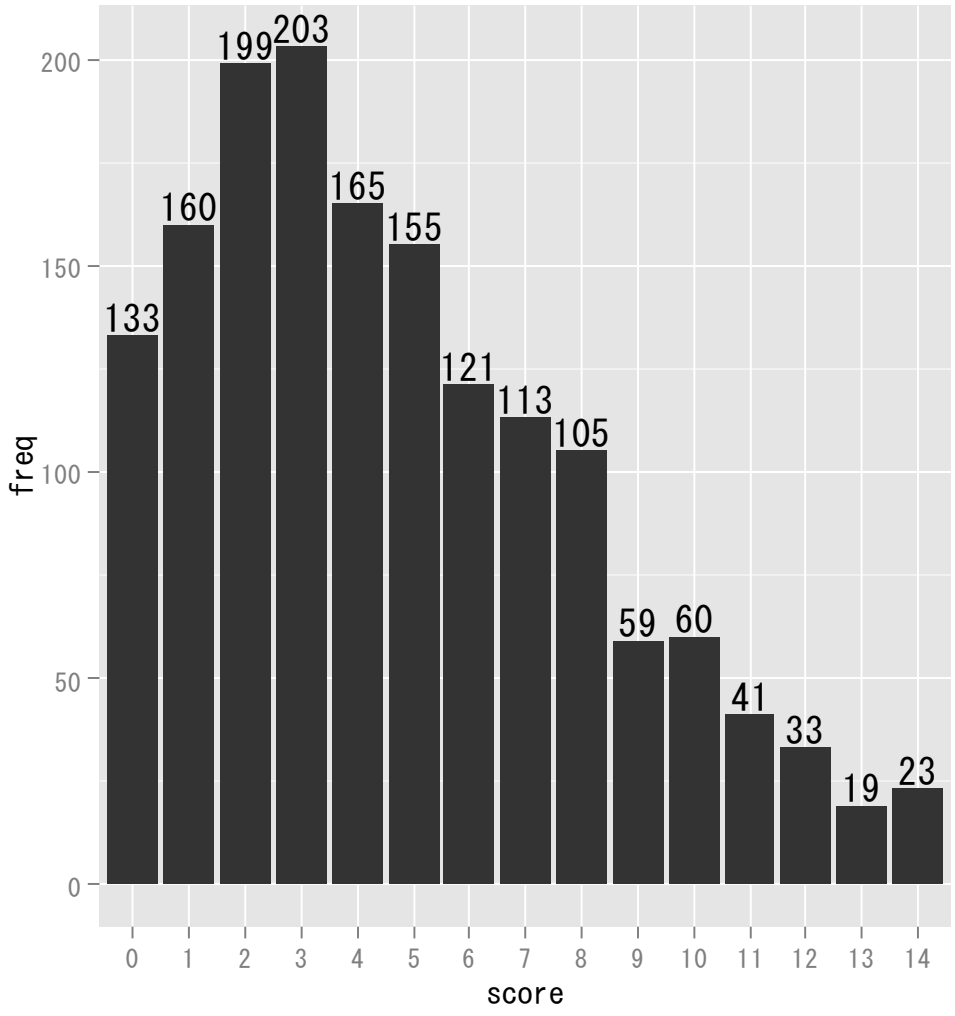
表（P.206）は、（問 27）の 16 個の項目（選択肢）間の相関係数を示した相関マトリックスである。統計的に有意（1%水準）ではない相関係数と負の相関係数は、表中では NA と表記されている。この表から、全体として見るならば、項目 15（「その他」）と項目 16（「成長したとは思えない」）という２項目を除いた、残りの 14 項目のあいだには相互に正の相関関係があることがわかる。そこで、これら 14 項目の値を加算して、回答者の「成長」の程度を測るための尺度変数を構成できるかどうかということを検証する。

具体的には、これら 14 項目への回答データから、そのクロンバッハ（Cronbach）の alpha 係数を算出する。結果として得られた alpha 係数は **0.8019** と極めて高い値となった。それゆえ、これら 14 個の２値データを単純加算して得られる変数（ここではこの変数名を growing 変数とする。）は、回答者が中学校を卒業した頃と比べて現在どの程度「成長」している（と感じてい

る）のかを測る変数として利用できることを意味している（なお、この growing 変数は 0 から 14 までの 15 段階の値をとる変数となる）。次のグラフは、この成長スコア（**growing score**）の分布を示したものである。

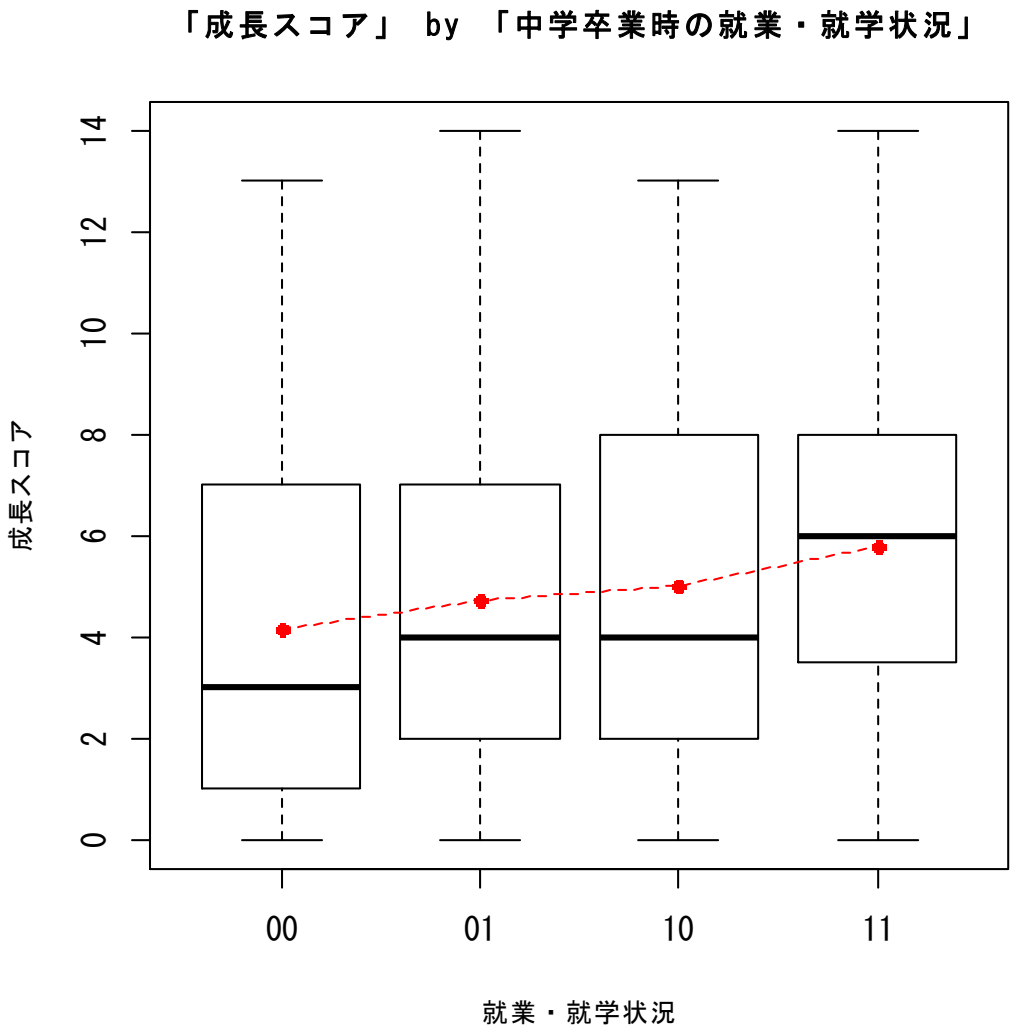
```
> tmp <- data.frame(score=factor(0:14),freq=as.vector(table(data$growing)))
> ggplot(tmp, aes(x=score,y=freq))+geom_bar(stat "identity")+geom_text(aes(label=freq),vjust=-0.2)

# growing score の分布
```



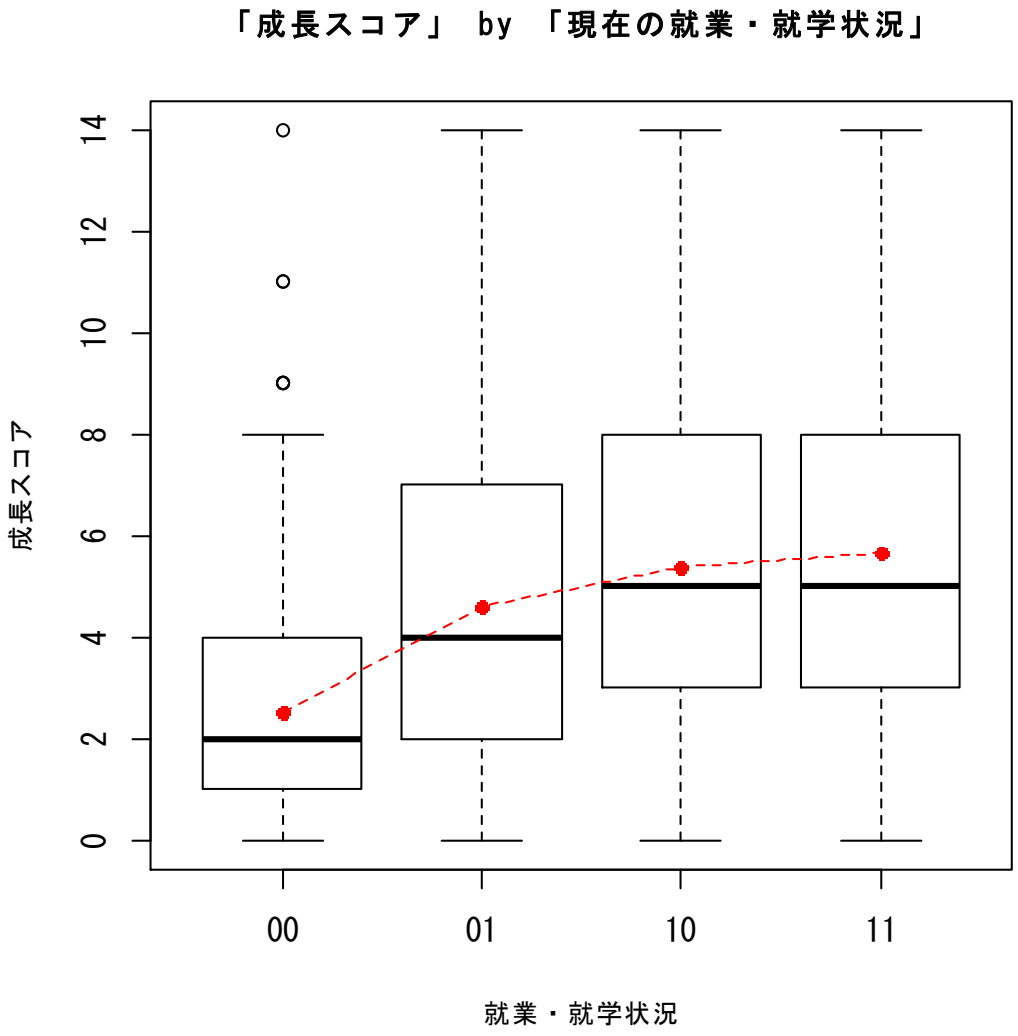
```
> my.boxplot(growing,JS1,
+ main="「成長スコア」 by 「中学卒業時の就業・就学状況」",cex.main=0.9,
+ xlab="就業・就学状況",ylab="成長スコア",cex.lab=0.8)
$result1
          n     Mean  Variance
Group1  133 4.142857 11.199134
Group2 1290 4.711628 11.842301
Group3   95 5.031579 12.116013
Group4   67 5.776119  9.661239

$Tukey
            t           p
1:2 1.8247615 0.261979927
1:3 1.9330214 0.214601923
1:4 3.1853325 0.008027402
2:3 0.8793584 0.815584767
2:4 2.4821907 0.063087020
3:4 1.3635800 0.522502030
```



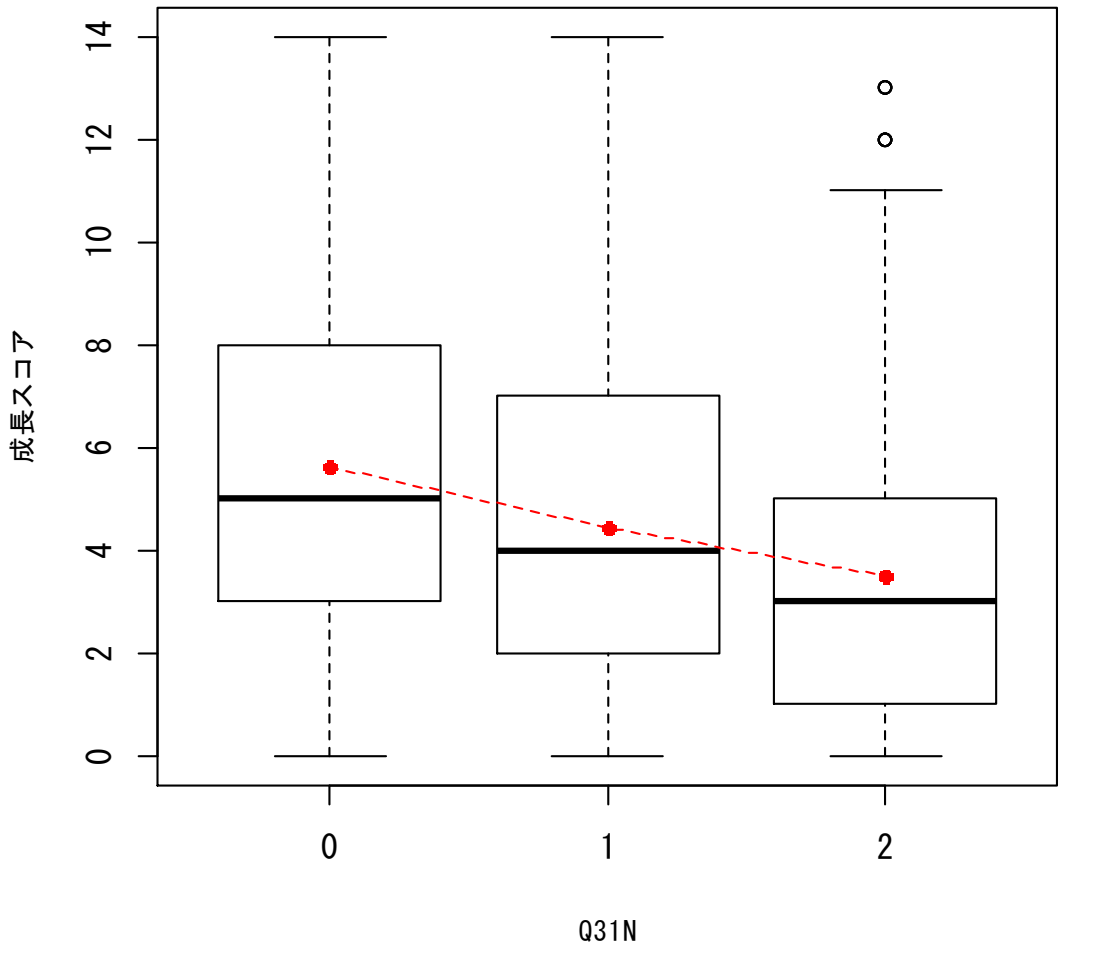
```
> my.boxplot(growing,JS3,
+ main="「成長スコア」 by 「現在の就業・就学状況」",cex.main=0.9,
+ xlab="就業・就学状況",ylab="成長スコア",cex.lab=0.8)
$result1
         n     Mean  Variance
Group1 273 2.538462  6.168552
Group2 420 4.602381  9.648204
Group3 527 5.375712 11.949827
Group4 299 5.675585 13.233328

$Tukey
            t           p
1:2  8.182080 0.000000e+00
1:3 11.726567 0.000000e+00
1:4 11.550005 0.000000e+00
2:3  3.643777 1.580931e-03
2:4  4.371292 7.775672e-05
3:4  1.276500 5.780806e-01
```



```
> my.boxplot(growing,Q31N,
+ main="「成長スコア」 by 「不登校による現在へのマイナスの影響」",cex.main=0.9,
+ xlab="Q31N",ylab="成長スコア",cex.lab=0.8)
$result1
         n     Mean  Variance
Group1 646 5.648607 12.036021
Group2 550 4.460000 11.043024
Group3 377 3.493369  9.154876

$Tukey
            t           p
1:2  6.177289 2.484176e-09
1:3 10.027025 0.000000e+00
2:3  4.359139 4.133363e-05
```



（問 27）の 16 項目間の相関係数マトリックス

	Q2701	Q2702	Q2703	Q2704	Q2705	Q2706	Q2707	Q2708	Q2709	Q2710	Q2711	Q2712	Q2713	Q2714	Q2715	Q2716
Q2701	1.000	0.219	0.285	0.239	0.242	0.283	0.205	0.228	0.188	0.155	0.201	0.254	0.217	0.128	NA	NA
Q2702	0.219	1.000	0.365	0.093	0.234	0.200	0.254	0.219	0.222	0.180	0.223	0.228	0.155	0.223	NA	NA
Q2703	0.285	0.365	1.000	0.216	0.275	0.215	0.310	0.230	0.274	0.139	0.210	0.233	0.130	0.170	NA	NA
Q2704	0.239	0.093	0.216	1.000	0.272	0.172	0.206	0.133	0.149	0.116	0.147	0.164	0.148	NA	NA	NA
Q2705	0.242	0.234	0.275	0.272	1.000	0.290	0.429	0.208	0.331	0.165	0.324	0.391	0.199	0.208	NA	NA
Q2706	0.283	0.200	0.215	0.172	0.290	1.000	0.248	0.276	0.240	0.191	0.270	0.352	0.264	0.091	NA	NA
Q2707	0.205	0.254	0.310	0.206	0.429	0.248	1.000	0.230	0.425	0.148	0.297	0.386	0.131	0.296	NA	NA
Q2708	0.228	0.219	0.230	0.133	0.208	0.276	0.230	1.000	0.244	0.253	0.192	0.259	0.193	0.081	NA	NA
Q2709	0.188	0.222	0.274	0.149	0.331	0.240	0.425	0.244	1.000	0.148	0.227	0.316	0.171	0.294	NA	NA
Q2710	0.155	0.180	0.139	0.116	0.165	0.191	0.148	0.253	0.148	1.000	0.278	0.216	0.239	0.100	NA	NA
Q2711	0.201	0.223	0.210	0.147	0.324	0.270	0.297	0.192	0.227	0.278	1.000	0.369	0.283	0.160	0.068	NA
Q2712	0.254	0.228	0.233	0.164	0.391	0.352	0.386	0.259	0.316	0.216	0.369	1.000	0.245	0.188	NA	NA
Q2713	0.217	0.155	0.130	0.148	0.199	0.264	0.131	0.193	0.171	0.239	0.283	0.245	1.000	0.146	NA	NA
Q2714	0.128	0.223	0.170	NA	0.208	0.091	0.296	0.081	0.294	0.100	0.160	0.188	0.146	1.000	NA	NA
Q2715	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	0.068	NA	NA	NA	1.000	NA
Q2716	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	1.000

研究組織

１　不登校生徒に関する追跡調査研究会の設置について

２　不登校生徒に関する追跡調査研究会委員

３　不登校生徒に関する追跡調査研究会の審議経過

不登校生徒に関する追跡調査研究会の設置について

初等中等教育局長決定

1　趣旨

不登校の未然防止や不登校児童生徒への必要な支援の在り方等を検討する上での基礎資料とするため、不登校経験者の状況を把握する必要があることから、不登校生徒に関する追跡調査について検討・実施する。

2　調査事項

本研究会においては、上記のような観点を踏まえ、不登校生徒の状況を把握するため、過去に不登校であった者に対して次の事項等を調査する。

- 不登校当時の状況
- 中学校卒業後の状況
- 現在の状況

3　実施方法

（1）別紙の委員の協力を得て行う。

（2）必要に応じて、委員以外の者にも協力を求めるほか、関係者の意見等を聴くことができるものとする。

4　実施期間

委員の発令は、平成２３年７月１９日から平成２６年７月３１日までとする。

5　その他

本研究会の庶務は、初等中等教育局児童生徒課が処理する。

不登校生徒に関する追跡調査研究会委員

（５０音順）

伊　藤　美奈子　　奈良女子大学生活環境学部教授

菅　野　　純　　早稲田大学人間科学学術員教授

栗　原　慎　二　　広島大学大学院教育学研究課附属教育実践総合センター教授

笹　森　洋　樹　　国立特別支援教育総合研究所総括研究員

七　條　正　典　　香川大学教育学部教授

島　　和　博　　大阪市立大学大学院創造都市研究科教授

野　田　正　人　　立命館大学産業社会学部教授

◎森　田　洋　司　　鳴門教育大学特任教授

◎　座長

役職は平成２６年４月現在

※　本研究のＣ調査におけるインタビュー調査では、東京都保健所心理相談員協議会会長山本勝美様から惜しみない御支援と御協力を賜った。記して謝意を表する次第です。

＜文部科学省＞

内　藤　敏　也　　初等中等教育局児童生徒課長

池　田　　宏　　初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長

齊　藤　大　輔　　初等中等教育局児童生徒課課長補佐

加　藤　秀　樹　　初等中等教育局児童生徒課生徒指導室専門官（併）生徒指導第一係長

柿　並　陽　子　　初等中等教育局児童生徒課生徒指導室専門職

＜オブザーバー＞

中　谷　一　志

市　川　恵　幸

不登校生徒に関する追跡調査研究会の審議経過

第１回　平成２３年８月２日（火）

○不登校生徒に関する追跡調査について

第２回　平成２３年９月６日（火）

○追跡調査の実施方法等について

第３回　平成２４年１０月１５日（月）

○不登校追跡調査の進捗状況等

○Ｂ調査の調査結果について

○報告書の構成について

第４回　平成２５年７月１２日（金）

○これまでの経過について（報告）

○Ｂ調査の結果及び分析について

○Ｃ調査の概要について

○不登校生徒に関する追跡調査報告書構成（案）について

第５回　平成２５年９月６日（金）

○Ｂ調査のクロス分析結果について

第６回　平成２６年１月２０日（月）

○不登校生徒に関する追跡調査の分析について

○不登校児童生徒への支援について

第７回　平成２６年３月１３日（木）

○不登校生徒に関する追跡調査報告書（案）について

○今後の予定について